

高梁市まち・ひと・しごと有識者会議（第1回）会議要旨

日 時：令和7年8月19日（火）10時00分～11時40分

場 所：高梁市役所 3階大会議室

出席者：委員 別紙名簿のとおり（丸山副委員長、吉川委員、横山委員）

市 石田市長、中山副市長、山川部長、赤木部長、波戸参与、内田部長、
妹尾部長、藤井部長、森部長、伊丹教育次長、黄江事務長、内田消防長
庶務 大森秘書企画課長、宮田課長補佐

1 開 会

2 委嘱状交付

市長から各委員へ委嘱状を交付

3 市長あいさつ

4 役員選出

会長に井勝吉備国際大学学長特命補佐、副会長に丸山高梁市まちづくり協議会会長を選任

5 議題

（1）高梁市総合計画前期基本計画（第2期まち・ひと・しごと総合戦略）の振り返り

【質疑・応答】

○第一子、第二子の出生率が全国や県の平均よりも低いのはなぜか。

⇒そもそも未婚率が低いのが大きな原因だと考えている。

○結婚観に関しては、全国や県と大きな差はないと思うが、未婚率が低いのはなぜか。

⇒意見交換会の中では、高梁市の生活の利便性の低さから、子どもを持ち住み続ける見通しがつかないという声もあった。

○吉備国際大学の市内就職率が低いのはなぜか。

⇒高梁市に希望する仕事がないことが背景にあり、地元就職を選択する学生が多い傾向にあるのが実態である

○目標指標の未達成項目が多いが、特に重点的に達成すべき項目を決めるべきではないか。また、達成できなかった原因を分析し、それを踏まえて次に向けた取り組みをする必要があるのではないか。

⇒人口減少に関することがどの施策にも関わってきているので、どの施策を検討する上でも人口減少対策を意識して施策を検討する必要があると思っている。また、財政も厳しいため、力を入れていくべきところを定めて力を入れていく必要があると思っている。

⇒前期において達成できそうにないKPIが4割ほど存在した。担い手数や観光客数をKPIに置いている目標指標については、コロナの影響を多分に受けており、達成状況が芳しくなかった。ハード面に関しては毎年予算を削る中で期間内に目標を達成できない

ものが多く見受けられた。また、検診受診等、人の意識を変えていくものに関しては、なかなか KPI 達成度の上り幅が大きくなっていかない状況がある。

○日本全国的に人口減少が進行する中で、人口減少を止める手はないため、なだらかな人口減少を目指していくべきだと思う。また、若年層に高梁市に来てもらうためにも、高梁市の強みを活かしていくことが重要だと考える。

○前期基本計画策定の際、基本目標の KPI の設定の仕方が難しい、という感覚があった。優先順位をつけることができれば良いが、費用対効果を含めて検討する必要があると思っている。KPI の設定方法についてもしっかりと検討していく必要があるのではないかと考えている。

○子どもを持つ当初は、産む場所がないことが不安だった。結婚する、また第一子を出産することは大きなハードルだと思っており、市としてはどのような支援を行っているのか。

⇒出会いの場の創出や、子育て支援に関しては、市としてはかねてから進めているが、現時点ではこのような結果になっている。

○本来ではあれば男女の比率はあまり変わらないはず。しかし、男女のバランスが崩れているのは、女性の転出が増えており、それは女性が働きたい仕事がないことにある。結婚をすれば、第一子、第二子を出産する可能性はあり、婚姻率を高めるために広い視点から原因を検討することが重要だと考える。

（２）後期基本計画（次期総合戦略）の策定について

○見直し、PDCA を回すことを、もっと頻度を高めて実施していくべきなのではないか。

○環境マネジメントに関しても担当しているが、それに関しては毎月１度モニタリングの機会を設けている。庁内では実施していると思うが、見直しの頻度を多く設けて進めていくことは重要ではないかと考えている。

○「後期基本計画（次期総合戦略）で重視する考え方」の１つに「人口減社会における『幸福度の高い』市民の暮らしの実現」とあるが、幸福度は個人の主観によるものだと思う。市としては、幸福度をどのように定義するのか。

⇒重視する考え方として挙げているが、具体的な定義ができていないわけではない。幸福度をどのように定義するのかは今後研究の必要があると思っている。

○以前行政向けの、データに基づいて施策を打っていけば幸福度を高めることができるワークショップに参加した。主観的な幸福度を向上させるために、客観的なデータに基づいて施策の優先順位を決めていくことを、高梁市版で実施することは重要ではないかと思う。女性に多く高梁市に残ってもらうために、働く場所があれば良いのではなく、働いていて自分がやりがいを感じられる、女性が活躍できる職場であることが

重要であると考えている。

○「後期基本計画（次期総合戦略）で重視する考え方」に4項目を挙げているが、この4項目を挙げる理由は何か。

⇒人口減少や財源縮小等、高梁市の課題に応じて考え方の4項目を案として提示している。

○課題もあると思うがそのような各論ではなく、全てが都市像である「健幸都市たかはし」に繋がっている必要があり、重視する考え方がどのように「健幸都市たかはし」に繋がるのかを明示する必要があるのではないかと考える。

⇒「健幸都市たかはし」は自分が市長になる以前から存在していた言葉だが、人口減少が進行する中、市民の幸福度を高めるという視点は重要であるとする。生活利便性向上を求める声は多く、マクドナルドやイオンが高梁市に出店してほしいという声もあるが、そこで商売ができないと事業者が判断してしまうような状況を何とかする必要があると思っている。今後市民の幸福度を測るような指標を検討する必要があると思っている。

○有識者会議に参加している市民は限られており、基本計画策定においてどれだけの市民の声を聞いているのかが重要であるとする。アンケートの数をどれだけ実施したのか、転出が著しい若年層にアプローチしたアンケートを実施したのか、十分な回答を得られたのか、回答者が少しでも回答したくなるようなアンケート設計になっているのか、を検討する必要があると思っている。前回の市民アンケートは配布数1000名で、回答数は300台となっているが、これは妥当なのかどうかとも思う。

⇒前回の市民アンケートは5年前に実施したものと同様であり、経過を見るという背景があった。300～400ほどの回答数があれば統計的妥当性は一定程度保たれると言われている。

6 閉 会（16：00）